秋田県誕生150年記念

鹿角地域

歴史の1コマ

第22回 全国高校スキー大会開会式の入場行進
鹿角市が誕生して初めての全国規模のスキー大会である全国スキー大会が開会式を大湯小学校校庭、競技を花輪スキー場で行われました。連日2000人以上の観客が声援を送りました。（鹿角市　昭和48年）

鹿角市市制施行を祝う記念式典
当時秋田県内9番目の新市として誕生した鹿角市を祝う式典が昭和47年11月5日に花輪第一（現花輪）中学校体育館で行われました。鹿角市は令和4年で市制施行50周年を迎えます。（鹿角市　昭和47年）

敬老会(尾去沢地区)
昭和47年の敬老会は敬老の日を中心に各地区で行われました。記念品贈呈やアトラクションを見ながら楽しいひと時を過ごしました。記念品では80歳以上の方には鳩杖が贈られました。（鹿角市　昭和47年）

成人式
鹿角市になって初めての成人式が昭和47年8月15日に花輪高校体育館で行われました。新成人1200人余のうち、771人が出席し、成人証書の授与等の式典の後、講演会、花輪高校吹奏楽部の演奏会が行われました。（鹿角市　昭和47年）

あきた鹿角国体(第52回国民体育大会) 開会式の入場行進
第52回国民体育大会冬季大会スキー競技会が平成9年2月20日から23日に花輪スキー場などで行われました。多くのスタッフやボランティアによって大会は支えられ「白銀の鹿角に燃える わざちから」のスローガンのもと熱戦が繰り広げられました。
（鹿角市　平成9年）

制作：「秋田県」誕生150年記念事業実行委員会（令和4年2月制作）

秋田県誕生150年記念

鹿角地域

歴史の1コマ

ユネスコ無形文化遺産登録後初の奉納

毎年1月2日、大日霊貴神社に奉納される大日堂舞楽が平成21年9月30日ユネスコ無形文化遺産に登録されました。鹿角市で初めてのユネスコ無形文化遺産の登録になります。翌年1月に奉納された舞楽には多くの観覧客が訪れました。（鹿角市　平成22年）

世界文化遺産登録決定のパブリックビューイング

令和3年7月27日に大湯環状列石を含む北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録決定を見守るため、大湯ストーンサークル館でパブリックビューイングが行われました。大湯環状列石発見から90年を迎えた記念の年に、鹿角市初の世界遺産が誕生しました。（鹿角市　令和3年）

文化の杜交流館コモッセオープン

平成27年4月16日にコモッセがオープンしました。待望のオープンに多くの市民が来館し、文化ホールで行われた記念式典ではグランドピアノや吹奏楽の演奏に多くの観客が魅了されました。（鹿角市　平成27年）

小坂七夕祭

明治末期に鉱山労働者が始めたと伝わる「小坂七夕祭」。写真は東渡ノ羽自治会の山車「虎戦也」。進取の気風に富む町民たちが町内ごとに趣向を凝らした山車を制作し、祭当日はその熱気がこのときとばかりに爆発します。現在では、８月第一土・日曜日に開催され、特に例年日曜夜に予定される合同運行は圧巻です。
（小坂町　昭和51年）

小坂鉄道小坂駅にて最終旅客列車出発進行

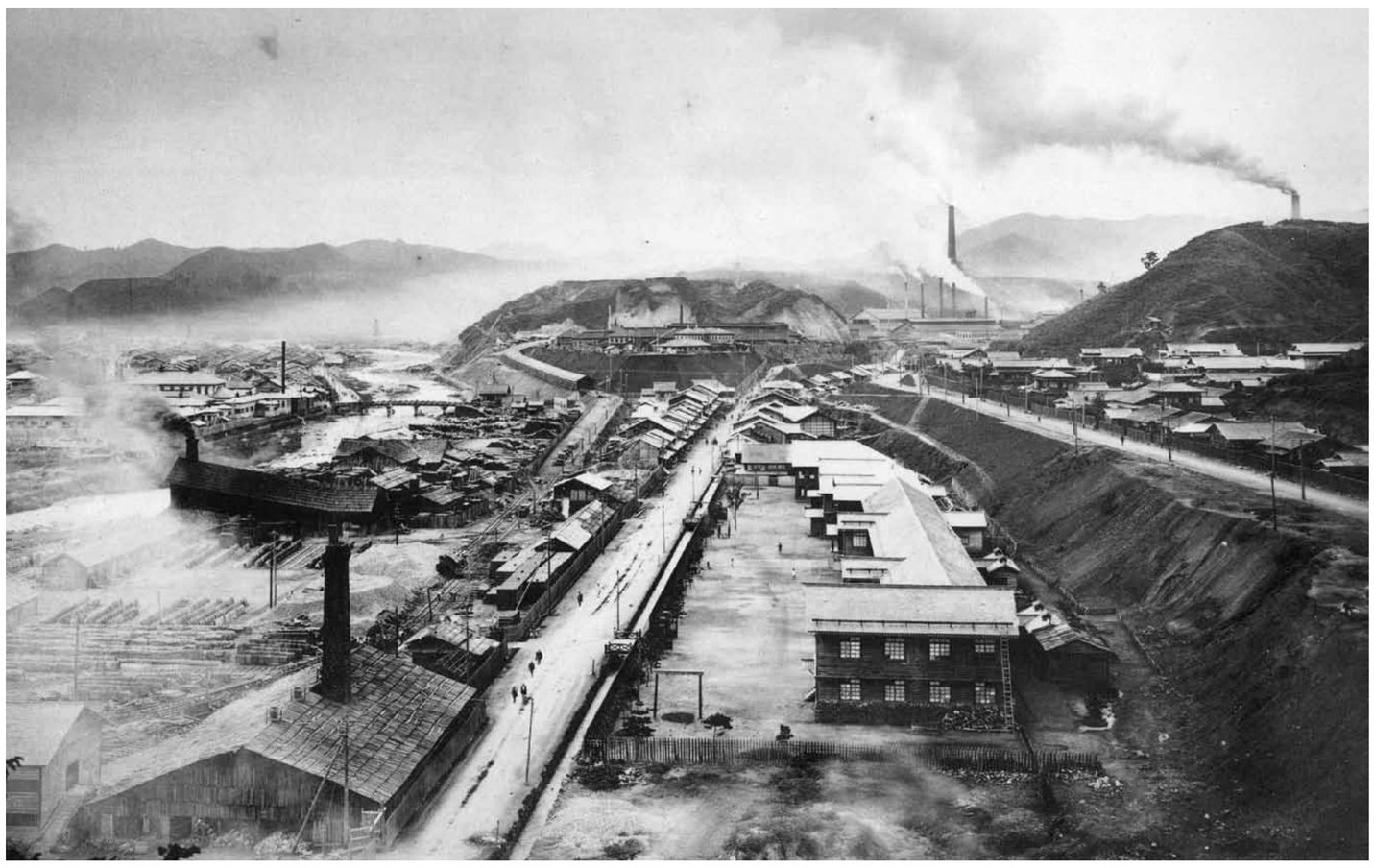
明治42年（1909）に開業し、大館・小坂間22.3kmを結ぶ鉱山鉄道として親しまれた「小坂鉄道」。しかし、平成6年(1994)9月30日を最後に旅客部門が廃止となり、涙雨の中多くの町民が別れを惜しみました。平成21年（2009）の貨物を含めた全面廃止の後、旧小坂駅は「小坂鉄道レールパーク」として整備され、多くの観光客や鉄道ファンを魅了しています。（小坂町　平成６年）

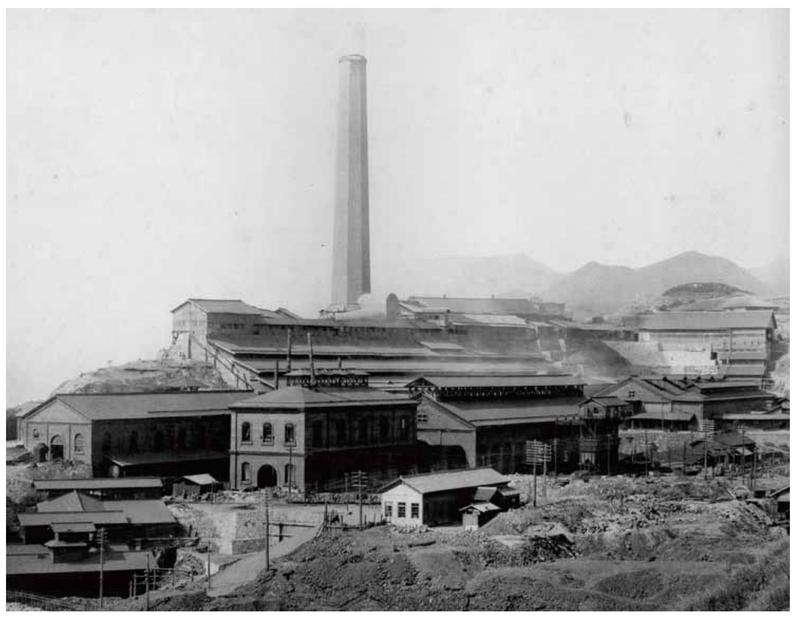
制作：「秋田県」誕生150年記念事業実行委員会（令和4年2月制作）

秋田県誕生150年記念

鹿角地域

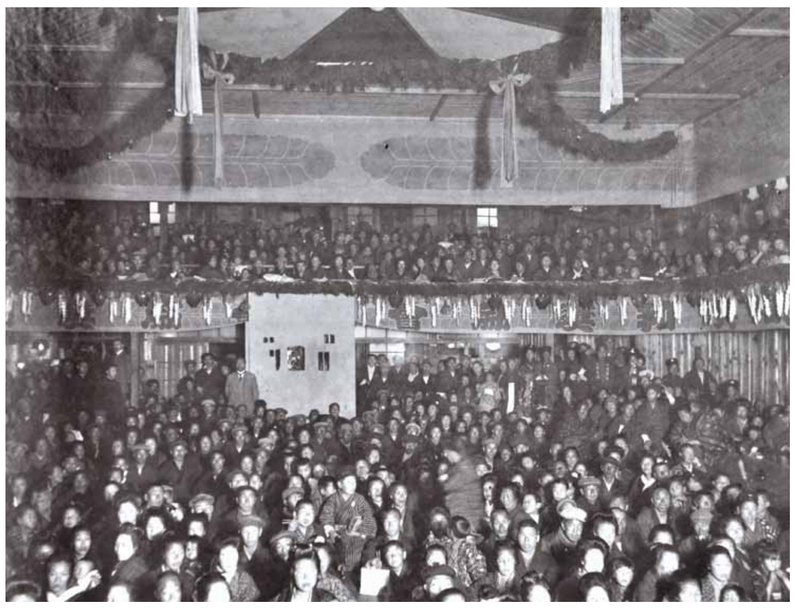
歴史の1コマ





小坂鉱山市街地全景(左)・小坂鉱山溶鉱炉(上)

小坂鉱山の企業城下町として栄えた明治期の小坂市街地。明治35年(1902)に黒鉱自溶製錬設備が完成すると鉱山は大きく発展し、長く秋田県の経済を支え続け、大正初期には人口２万人を超えて県下第二の町とたたえられるほどでした。平成期に金属リサイクル製錬に転換した小坂製錬は、今も町の主要産業として発展し続けています。(小坂町　明治41年)



小坂鉱山演劇場康楽館の景(左)
大正初め頃の康楽館のにぎわい(上)

明治43年(1910)に鉱山従業員の厚生施設として建設された劇場「康楽館」(国重要文化財)。創建時から歌舞伎や演劇、講演会、映画会など様々な公演が行われました。昭和61年(1986)の修復を経て、観光施設として新たな命が吹き込まれ、今も芸術文化の殿堂として多くの人々に親しまれています。(小坂町　左の写真は大正2年)

昭和初期の尾樽部通り

小坂町の中心街として栄えた尾樽部通り。人口が急増し新天地として県内外から多くの商人が集まり、東京と遜色ない品々をそろえた商店街としてにぎわいました。最盛期には毎月５日・15日・16日・17日・25日に小坂鉱山主催の定期市が立ち、たくさんの買い物客で通りが埋め尽くされるほどだったと言われます。(小坂町　昭和初期)

十和田湖発荷峠展望台

小坂町の観光拠点、神秘の湖「十和田湖」(国立公園、国特別名勝および天然記念物)。秋の十和田湖は最も美しいと言われ、写真にある昭和47年(1972)10月には全国から多くの観光客が詰めかけ、湖畔はパンク寸前の状態だったと記録されています。十和田湖の自然環境と景観は、今も多くの人々の手で守り育てられています。(小坂町　昭和47年)

制作:「秋田県」誕生150年記念事業実行委員会(令和4年2月制作)